



正月特別公演事前学習講座

今年度の名古屋能楽堂定例公演は、能や狂言に関わりが深く、今年で生誕 480 年・江戸開府 420 年を迎える徳川家康に焦点を当てた演目をお届けします。

正月特別公演の能の演目は「翁」と「安達原」。慶長 10 (1605) 年 7 月 7・8 日伏見城にて、徳川家康と秀忠がそろって鑑賞した演能で上演され、どちらも家康のお気に入りだった観世大夫がシテを務めました。事前学習講座では、物語の背景や見どころなどをご紹介します。能楽鑑賞に興味はあるけど難しそう…と思っている方、まずは事前学習講座から始めてみませんか？

～『翁(おきな)』あらすじ～

若々しく颯爽たる千歳の舞に始まり、翁の面を舞台でかけたシテによる荘重な祈祷の舞が続く。翁は舞を終えると千歳を従えて退場し、そのあと三番叟が「揉(もみ)之段」と、黒式尉の面をかけ、鈴を持って舞う「鈴之段」の二つの賑やかでダイナミックな舞を舞う。

～『安達原(あだちがはら)』あらすじ～

山伏祐慶の一行は、陸奥の安達原で行き暮れて、荒野の一軒家に宿を借りる。あるじの里女は、山伏の求めに応じて糸繰り車を回して、あさましい身の上を嘆いたり、調子を変えて糸尽くしの歌を歌ったりする。やがて夜が更け寒さが増すと、里女は山から薪を採ってくると言い、留守中に自分の閨は決してのぞかないようにと念を押して出掛ける。<中入> 不審に思った強力が閨の内をのぞき見ると、そこにはおびただしい人の死骸が散乱していた。強力の報告に、山伏たちはさては鬼の住む有名な黒塚だったかと一目散に逃げ出す。そこへ鬼女に変じた里女が、約束を破ったことを非難しながら襲い掛かる。対する祐慶は数珠をもちで必死に祈り、鬼女はついに祈り伏せられる。鬼女は秘密を暴かれた怨みを残しながら、夜嵐の音とともに消えていく。

ご受講には事前学習講座
チケットが必要です

500 円

チケット取扱いについて



チケット発売日：10月13日(金)

チケット取扱い：

名古屋能楽堂 TEL:052-231-0088

名古屋市文化振興事業団チケットガイド

TEL:052-249-9387(平日 9:00～17:00/チケット郵送可)

名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口

<土日祝日も営業>でもお求めいただけます。

(工事休館などがありますので、ホームページでご確認下さい。)

※友の会・障がい者等による割引はありません。

講座日時

【日時】 12月16日(土)
14:00～16:00

【会場】 名古屋能楽堂 会議室

【講師】 米田真理
(朝日大学経営学部教授)

【定員】 60名 (未就学児入場不可)

※チケットは1回につき4枚までの販売とさせていただきます。

正月特別公演

【1月3日(水)13:00開演】

能「翁」(観世流)シテ/久田勘鷗

狂言「目近」(和泉流)シテ/松田高義

能「安達原」白頭・急進之出(観世流)シテ/久田三津子

指定席 5,200 円、自由席(一般) 4,200 円(学生) 2,000 円



主催：公益財団法人名古屋市文化振興事業団 [名古屋能楽堂]